

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社ケイズ(仮称)テクノロジー	階数	地上4F
建設地	鳥取県米子市両三柳2895-7,2864-	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、22条地域	平均居住人員	470 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2018年3月22日
敷地面積	1,932 m <sup>2</sup>	作成者	新田 唯史
建築面積	768 m <sup>2</sup>	確認日	2018年3月22日
延床面積	2,873 m <sup>2</sup>	確認者	新田 唯史

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 84% ③上記+②以外の 84% ④上記+ 84%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.1</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.1</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.0</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.7</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>直射日光対策による空調負荷の軽減、建物運用後のメンテナンスのしやすさに配慮した計画とした。</p>		その他
<p>Q1 室内環境</p> <p>外壁の外側に日除けのルーバー、開口部上部に日除けの庇を設置し、直射日光による負荷を軽減させた計画としている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>地下ビット、天井懐の確保、OAフロアにより建物運用後のメンテナンス対応に配慮した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>建物外周とエントランス周辺に緑地帯を設け、緑の確保と景観保全に配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物の外皮性能の向上の意識した計画とした。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型の水栓の利用等を意識した計画とした。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>外壁の外側へアルミ製のルーバーを設置することで防犯性、プライバシーの確保に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される